

上島町立岩城小学校との交流

【内容】 4年生社会科「水はどこから」の学習で、自分たちの地域と他の地域の水の運ばれ方について、オンラインで交流した。

【使用アプリ】 Google Meet、ロイロノート

【事例紹介】 四国中央市と上島町の飲み水になる過程を、お互い発表するオンライン授業を行った。最初の交流では自己紹介を行い、その後の交流では「水はどこから」の学習で分かったことについて、ロイロノートにまとめた資料を使いながら、紹介し合った。

Chromebookの画面を共有しながら、飲み水のでき方を伝えることで、四国中央市と他の地域との水のでき方の違いや共通点をたくさん見付けることができた。いつも少人数で学習している児童は、交流に少し緊張していたが、交流後は「水が来るところが全然違っていたので、びっくりした。」「紹介を聞いてもらったり、岩城小の発表を聞いたりして、楽しかった。水のでき方がよく分かった。」と、うれしそうに話していた。

理科 実験場面で



【内容】 ①5年生理科「流れる水のはたらき」 ②6年生理科「電気と私たちの生活」

【使用アプリ】 ①、②ロイロノート、②Scratch（プログラミングスイッチ）

【事例紹介】 5・6年生理科の実験の場面で、ロイロノートのカメラ機能を用いている。何度も実験結果を確認することができたり、欠席児童も前時の実験の様子を見ることができたりするため、効果的な学習ができる。撮影した動画を基に話し合いができるので、考察の際に活発な意見交換ができています。6年生理科「電気と私たちの生活」では、プログラミングスイッチを使って、身の回りには電気エネルギーを目的に合わせて制御する仕組みがあることについて体験的に学んだ。



【終わりに】 本校は小規模校のため、他の児童と交流したり、意見交換をしたりする場面が少ない。そのため、大勢の前で意見を伝える場面に、苦手意識を持つ児童もいる。しかし、他校の児童とのオンライン交流を重ねることで、自分の意見を伝えることや、表現することに少しずつ自信を持てるようになってきている。プログラミング学習においても、プログラムが身近に感じられるよう、今後も体験的な学習を積み重ねたい。

☆教育委員会主幹講評☆ 小規模校では、一人一人の児童に対してきめ細かい指導が行いやすいなどの利点がある一方で、多様な考え方や見方に触れる機会が少なく、児童同士で学び合う協働的な学習が行いにくいという課題もあります。また、複式指導特有の指導技術を必要とされることから、教員の負担も大きくなっています。今回は小規模校で、調査や体験によって得た写真や絵などの資料をICTを用いてまとめ、さらに、その成果をオンライン授業で交流し、深めることができた好事例の紹介でした。オンラインによる遠隔授業で、多様な意見に触れる機会を設けることが可能になるとともに、小規模校の児童が抱えていた、大規模校への合流に対する不安感の解消、教員同士の指導方法の交流にも繋がっていると感じます。今後も小規模校における児童の「思考力」「表現力」の育成の一つの手段として、オンライン授業をより効果的に活用する方法を研究してください。